



01

パイオニア精神が拓く 技術力

有限会社青葉精工製作所
ゆうげんがいしゃあおばせいこうせいさくしよ

有限会社青葉精工製作所は、マシニング加工・フライス加工などの金属切削加工を行う会社である。金属切削加工とは、材料である金属の塊から部品を削り出す加工方法だ。同社は、アルミや真鍮（しんちゆう）などの様々な材料を削り出し、カメラや自動車など幅広い産業で使用する部品を加工することができ、高い技術力を持った企業である。

**最先端の技術で
大手企業のニーズに 대응**

同社は、昭和27年に先代社長の田中敏彦氏が創業した。当時はマシン部品のプレス加工が中心だったが、田中三津男社長の代になって新しい加工方法を取り入れた。

田中社長は、当初、職業訓練校でフライス加工の技術に出会った。27歳まで他社で技術を磨き、同社に入社するとカメラ部品のフライス加工を開始した。36歳の時に、より高精度なマシニング加工を始めるべく、最新の自動制御加工機を導入。操作や技術を習得するため、田



中社長は昼間にメーカーの技術講習に通い、夜間に仕事をして習得した。

努力のかいあって、当時のマシニング加工の最先端技術を習得。大手企業からもその技術を認められ、同社は業務を拡大することができたのである。

「複雑な加工にも対応しているので、他社では断られるような加工が持ち込まれてくる」と田中社長。先んじて設備を導入して磨き続けてきた同社の技術力

は他社を圧倒している。

安定取引を求めて顧客を分散

順調に業務を拡大させたように見える同社だが、予期せぬトラブルに見舞われたこともあった。従業員数が少ないという理由で、中心であった大手企業からの仕事を打ち切られたのである。

社に対する依存度を2割以下にまで落とすことができ、現在同社の売上は安定している。

地域活動にも貢献

田中社長は、地域貢献活動にも積極的だ。老人ホームなどを訪問しボランティア演奏会を行う和太鼓チーム「世田谷天竜太鼓」の会長や、犯罪者等の更生を行う保護司、学校評価委員会の委員長など、挙げればきりがないほど多くの役割を担っている。

全く仕事がない状況が数か月続く中、田中社長はひとつの結論を出した。安定した取引のため、一社に対する依存度を下げることを決めたのだ。そのため、見積もりを30分以内に提出するなどサービス面も強化し、徐々に取引先を開拓。現在では大口取引先が10社ほどに増えた。一

「時間割を作ることが大切。やるべきことを明確にすることで、どんなに忙しくても仕事と地域貢献活動を両立させることができるのです」と田中社長はこともなげに言う。



Data Box

有限会社青葉精工製作所

代表者 田中 三津男
所在地 〒157-0077 世田谷区鎌田1-8-6
連絡先 TEL 03-3700-6485 FAX 03-3708-5057
URL <http://www.aobaseikou.co.jp/>



このコマの加工するの
シマのクマの加工するの
このコマの加工するの
シマのクマの加工するの

1. 数ミクロンレベルで加工するの
2. ファイン仕上げの加工
3. 数ミクロンレベルで加工するの
4. 本社。1階が工場になっている

来年には、最新の5軸加工機の導入が予定されており、さらなる最先端技術を磨いていくという。田中社長のパイオニア精神はまだまだ健在である。